

巻 頭 言

通商産業省窯業建材課長

富 田 育 男

本年7月1日に窯業建材課長に就任した富田でございます。

前職は、沖縄開発庁沖縄総合事務局通商産業部長であり、沖縄で勤務しておりました。窯業建材課長に就任してからは、那覇勤務の間味のある豊かな生活パターンから一転して、日米間の通商問題となっている板ガラス問題への対応を始め慌ただしい2ヶ月が経ちました。

私の通産省の振り出しが窯業建材課からであり、当時もガラス、セメント、建材関係に従事しておりました。また、ニューガラスについては、7年前にファインセラミックス室長をしていた関係から、多少の知識及び土地勘は持ち合わせているつもりでございましたが、この数年の間に日米通商問題が生じており、また、ニューガラスについても電子素子等広範な分野において様々な機能を発揮しているなど当時からの変化に驚いているところでございます。

窯業建材課の所管業種には、中小企業から大企業までが存在し、また、国際的な視野で対応していくべき課題も多いということで忙しい中にも非常にやりがいのある仕事と再確認しているところでございます。

社団法人ニューガラスフォーラムは、新しい可能性を持ったニューガラスの育成に関心を持つ民間企業、学識経験者、官（試験研究機関）が結集して組織された機関であり、素材開発を効果的に進めるために、ガラス研究者が持ち寄ったシーズと、そのユーザーである各方面のシステム側の研究者が持ち寄る新素材に対するニーズとを同じフォーラムの場で出会わせ、効率の良い開発のターゲットを生むことを目的とした、いわばマッチメーカーの役割を果たしていると承知しております。本フォーラムの活動により生まれた新商品が市場に出回り、それがまた成長していき、新たなニーズを呼び、シーズとのマッチングが再度必要となるといった相乗効果が期待される訳で、本フォーラムの果たす役割は非常に重要なものがあります。また、ニューガラスの研究開発への国際的な視点からの貢献を目的として「国際ガラスデータベース」及び「同バージョンアップ版」を作成・発売し、国内外の産業界を始め、基礎研究者からも非常に高い評価を受けているとお聞きしており、今後ともこの分野における本フォーラムの世界的な御活躍に期待しております。

このような業際的、学際的、国際的に極めて活発な活動を展開している本フォーラムが、いよいよ来年には10周年を迎えることは非常に喜ばしいことであり、今後の更なる飛躍を心より祈念するものであります。